

明日も元気で来いよ！

今日から2学期 めでてをもってがんばろう！ まだまだ厳しい残暑ですが、朝夕の空気に、ほんの少し、秋の気配を感じるようになりました。夜には、虫の声も聞こえています。今日から2学期。いつもより1週間早い始業式です。保護者、ならびに地域の皆様には、休業中、子どもたちを見守っていただきありがとうございました。無事に2学期を迎えることができました。今学期もよろしくお願ひいたします。



本をいただきました 夏休みに入ってすぐ、東京にお住いの山内信子様から一通の手紙とともに、2冊の図書が送られてきました。

タイトルは、「名犬チロリ 日本初のセラピードッグになった捨て犬の物語」と「いのちをつなぐ セラピードッグをめざす被災地の犬たち」(ともに 大木トオル著 岩崎書店)です。

さっそく、山内様からのお手紙と2冊の本を読んでみました。すると、私は、どうしてもその内容を、この「明日も元気で来いよ！」で紹介したいと思いました。それは、お手紙や本の内容から、「人への優しさや思いやり」を子ども達の心に育てたいという、山内様の強い気持ちが伝わり、私もその気持ちに対して、おおいに共感したからです。

山内様の了解を得ましたので、ここでお手紙の全文を紹介します。

大阪府と兵庫県の小学校のみなさんへ

初めまして、私は東京都に住む主婦で山内信子と申します。小学校5年生から結婚するまで大阪府茨木市に住んでいて、高校までは、市内の学校に通っていました。今は、65歳になり、実際に孫もいるおばあちゃんです。

学校図書にある「名犬チロリ」という本を知っていますか。赤ちゃんのいる捨て犬のチロリがつかまって殺されそうになった時、大木トオルという人に助けられたというお話です。大木トオルさんは、そうやって助けた犬を訓練して、お年寄りや体の不自由な人のところへ行って心をいやしたり、一緒にいてみんなに元気をあげる仕事のできるセラピードッグに育てる活動をしている人です。

大木さんに育てられたセラピードッグたちは今も日本中で活躍していて、たくさんの人たちを元気にしています。

みなさんも知っている東日本大震災のことです。福島の原子力発電所が地震でこわれて、近くに住んでいる人たちはすぐに避難しなければなりませんでした。

大あわてでにげなくてはいけなかつたのでたくさんのペットや家畜が取り残されました。

大木さんは原子力発電所の周辺に取り残された犬たちの中の何匹かを助け出して、自分の施設で訓練してセラピードッグにしています。

私はその犬たちが助けられて今はセラピードッグとして活躍していることを書いた本を偶然読んでとても感動しました。

あんなにつらい目にあったのだけれど、犬たちは大木さんに愛されて、いやされて、自信を取り戻したのです。そして自分たちがつらい思いをしたから、(犬なんだけど)、苦しんでいたりさびしかったりする人のことが分かるんですね。今は大木さんと一緒に、被災地やいろいろな施設に行っていっぱい働いてくれています。

福島では避難しなければならなかつた人たちがたくさんいて、今も福島に帰れないでつらい経験をしている子供たちがいます。

みんながその子供たちと会うことはないかもしれないけれど、大木さんの書かれた本を読んで少しでも思いやる気持ちを持ってもらえたならなあと思って、大木さんの本をみなさんへ送りたいと思いました。

私は去年、東北の小学校に「名犬チロリ」と「いのちをつなぐ」という2冊の本を送ったのですが、震災で自分たちの学校がなくなってしまった子どもたちや、身近な人たちが死んでしまつた人たちから「覚えていてくれてありがとう。チロリの元気もったよ」という手紙をもらいました。

それで、もうずいぶん昔の話になるけれど同じように震災があった大阪と兵庫のみなさんに本を届けようと思つました。震災のことを知つているお父さん、お母さんや先生たちと、いのちの大切さや今福島から避難している子供たちのことを話し合うきっかけになればいいなと思っています。

「チロリたちの本は図書館にあるのだけどいつも借りられていて読めないので、もう一冊もらえてよかったです」という東北の小学校の図書委員会からの手紙に励まされてちょっとがんばってみました。

東北の子供たちと同じように、みんなで読んでいろいろ話し合つてみてください。
山内信子

みなさん、この手紙を読んでどう思いましたか。続きは次号で。